

日本プロテオーム学会 (2026 年～2027 年理事)

2026 年 第二回理事会

開催日時: 2026 年 7 月 21 日(火) 11:00～12:45

会場: 熊本城ホール 3F 第 3 会場(中会議室 D1+2)

出席者(50 音順, 敬称略): 足立淳、阿部雄一、石濱泰、今見考志、植田幸嗣、太田信哉、大槻純男、奥田修二郎、川島祐介、川村猛、紀藤圭治、久野敦、小迫英尊、小松節子(オブザーバー)、榊原陽一、杉山直幸、武森信暁、松本俊英、松本雅記、三城(佐藤)恵美、村岡賢、吉川治孝

Zoom 参加者: 川村猛

欠席者: 肥後大輔

<https://us06web.zoom.us/j/82649287468?pwd=9gRn5o9HteA0cpOVAAbLlQAjlnoUUJ.1>

ミーティング ID: 826 4928 7468

パスコード: 568944

1. 会長挨拶 (足立)

【報告事項】

2. 会員状況 (吉川)

会員数 (2026 年 7 月 2 日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 633 名 (個人会員: 536 名, 個人会員(法人登録): 97 名)(昨年: 586 名、一昨年: 560 名)
名誉会員	5 名 (昨年: 4 名)
学生会員	302 名 (206 名※1) (昨年: 289 名、一昨年: 270 名)
法人会員	14 社 (昨年 15 社、一昨年 13 社)
合計	940 名 + 14 社 (2026 年 1 月: 881 名 + 15 社、昨年: 834 名 + 13 社)

※1 メール不達者除外

● 会員数について、現時点の人数(上記)について報告があった。

3. JProS2026 大会 (大槻)

(1) 参加人数: 376 名 (名誉会員 2 名、会員 182 名、学生 45 名、非会員 43 名、招待演者 23 名、協賛企業 81 名) (2026 年 7 月 13 日現在)

(2) 大会収支案: 収入 14,770,000 円、支出 14,147,127 円 (2026 年 7 月 13 日現在) (資料 1 参照)

(3) 協賛企業数: 計 34 社 + 3 団体 (展示 29 社、広告 6 社、ランチョン・イブニングセミナー 6 社、ネームホルダー提供 1 社、助成 3 団体)

(4) 演題: 特別講演 2、国際講演 5、受賞講演 2、指定演題 46、一般演題 41、ポスター演題 70

4. JProS2027 大会 (小松) (資料 2 参照)

(1) 大会長 小松 節子 (福井工業大学)

(2) 開催場所 AOSSA (福井駅前)

(3) 開催期間 2027 年 8 月 2 日(月) ～ 8 月 4 日(水)

● 福井県内に JProS 会員がほぼいないため、福井県立大学・福井工業大学と共催形式となること、また、

学会補助金(福井県観光連盟コンベンション開催助成金)の都合上、参加者には可能な限り福井市内の宿泊施設を利用してもらいたい旨、小松 JPrOS2027 大会長より説明があった。また、昨今の物価上昇を踏まえ、学会参加費および懇親会費の値上げを検討すべきではないかとの提案が、大槻 JPrOS2026 大会長、小松 JPrOS2027 大会長よりあった。値上げについては、足立会長より、参加費の決定権は大会長にあるが、理事会の承認が必要。具体的な金額案を提示した上で理事会に諮る、との回答があった。

5. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(木村)

● 奨励賞、山下雅道賞の推薦について木村理事より報告があり、承認された。

・学会賞

該当なし

● 学会賞の選考にあたり、利益相反に該当する可能性のある選考委員候補が各賞で複数名いたため、選考委員の調整時に混乱が生じた。これを受け、今後、学会賞選考委員を決定する際には、あらかじめ利益相反に該当する候補者を考慮したうえで、各賞ごとに選考委員を選定すべきではないかとの提案が、木村理事よりあった。

・奨励賞

紺野 亮(公益財団法人かずさ DNA 研究所 ゲノム事業推進部 応用プロテオミクスグループ)

研究題目:「微量試料の前処理法の開発と高深度プロテオミクスへの挑戦」

吉川 治孝(慶應義塾大学 先端生命科学研究所)

研究題目:「サイズ排除クロマトグラフィーを用いた RNA-タンパク質複合体解析の手法開発」

・山下雅道賞(Gado Yamashita Award)

津曲 和哉(理化学研究所 生命医科学研究センター)

[研究活動] The HUPO 2026 Congress, in Singapore (2026 年 9 月 27 日～10 月 1 日)での発表

研究タイトル: Streamlined sample preparation for rapid and sensitive phosphoproteomics based on hydroxy acid-modified metal oxide chromatography (予定)

● 山下雅道賞の理念について、トラベルアワードとの位置づけの違いをより明確にすべきではないかとの指摘が、植田理事、石濱理事よりあった。足立会長より、山下雅道賞は学会発表も対象とするが、海外での研究についても重要視されるとの説明があった。また、武森理事より、HUPO ECR メンバーへの参加支援(参考 <https://hupo.org/ecr-activities/>)など、国際化に戦略的に寄与する人材育成のために山下雅道賞を活用してはどうかとの提案があった。これに関連して、ECR メンバーの活動報告などを通じ、国際的な人材育成の取り組みを若手会員にも周知・発信する場を設けてはどうかとの提案が、阿部理事よりあった。

6. 日本プロテオーム学会名誉会員(足立)

服部 成介先生

● 名誉会員の推薦が承認されたことについて足立会長より報告があった。

7. KHUPO および APS との交換講演(足立)

2010 年 KHUPO 山本 格、木下英司

2010 年 JHUPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)

2011 年 KHUPO 平野 久

2011 年 JHUPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)
2012 年 KHUPO 山田 哲司
2012 年 JHUPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)
2013 年 KHUPO 朝長 毅
2013 年 JHUPO KHUPO7 名の HUPO2013 によるサポートで対応
2014 年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)
2014 年 JHUPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)
2015 年 KHUPO 荒木令江 2015 年 JHUPO Bonghee Lee (Gachon University)
2016 年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花
2016 年 JHUPO Kwang Pyo Kim
2017 年 KHUPO 服部成介, 野村文夫
2017 年 JHUPO Cheolju Lee
2018 年 KHUPO 石濱泰
2018 年 JProS Jo-Yoel Cho
2019 年 KHUPO 大槻純男、太田信哉
2019 年 JProS Jinhwan Eugene Lee
2020 年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記 (中止)
2020 年 JProS 中止 2021 年 AOHUPO (KHUPO 主催) 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記
2021 年 JProS Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)
2022 年 KHUPO 足立淳 2022 年 JProS Jin Han (Inje University)
2023 年 KHUPO 中止 2023 年 JProS Jin Young Kim (Republic of Korea)
2024 年 JProS (KHUPO から) Kwan-Pyo Kim (Kyung Hee University)
2024 年 JProS (APS から) Morten Thaysen-Andersen (Macquarie University)
2024 年 APS 足立淳 2025 年 JProS (KHUPO から) Jae-Young Kim (Chungnam National University)
2025 年 JProS (APS から) Nichollas E Scott (University of Melbourne)
2025 年 APS 植田先生
2026 年 JProS (KHUPO から) Kim Kyunggon (Asan Medical Center, University of Ulsan), Song-Yi Lee (DGIST)
2026 年 JProS (APS から) Maria Tanzer (University of Melbourne)
2026 年 KHUPO 武森信暁、小形公亮
2025 年 APS 吉川治孝

KHUPO と MOU 締結

●KHUPO, APS との交換講演および MOU について説明が行われた。特に KHUPO は会長が毎年交代するため、引き継ぎでのトラブルを避けるべく MOU (期限は 2027 年大会まで) について JProS 側でも次期会長に引継ぎし管理する必要性について、足立会長より指摘があった。

8. 2025-2026 年度主催・共催・後援・協賛実績 (足立)

- (1) 主催および共催 日本プロテオーム学会 2026 年大会 (2026.7.21-7.23、熊本城ホール、熊本)
- (2) 後援 第 76 回日本電気泳動学会シンポジウム (2026.6.13、主催: 日本電気泳動学会、群馬パース大学)
- (3) 後援 第 23 回北里プロテオーム研究会 (2026.3.10、主催: 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、北里大学相模原キャンパス)
- (4) 協賛 日本バイオインフォマティクス学会 バイオインフォマティクス技術者認定試験 (第1回 2026.7.11-

8.9、第2回 2026.11.8-12.6、主催: 日本バイオインフォマティクス 学会)

(5) 共同シンポジウム 日本蛋白質科学会合同シンポジウム、日本プロテオーム学会 2026 年大会 (2026.7.21、熊本城ホール、熊本)

●2025～2026 年度学会の、主催・共催・後援・協賛について足立会長より報告が行われた。

9. 各担当理事からの報告

◆ 庶務 (川島、今見、阿部、吉川)

メール不正利用事案について【報告】(阿部)

経緯

- 2026 年 3 月、jpros2025@jhupo.org が第三者に不正利用された可能性があるとの連絡を ASJ から受領。
- ASJ 調査ではサーバー側からの情報漏えいは確認されず、パスワード漏えい等による不正利用の可能性が示された。
- 全メールアドレスのパスワード変更等の対策を実施し、「お約束書」を提出済み。

現状

- 現在はサービス継続中。
- ASJ の運用ルール:
 - 1 回目:お約束書提出
 - 2 回目:誓約書提出
 - 3 回目:サービス提供終了
- 現在は「お約束書提出済み」の段階にあることを確認。

対応および将来的な提案

- 継続的なパスワード管理・不要アカウント整理を実施。
- 将来的なリスク低減のため、ホームページ更新と合わせてサーバー移転を検討(?)。

●本件について、IT-広報委員が進めている学会 HP システムの更新と関連するため、庶務とIT-広報で連携して対応する事となった。

◆ IT-広報 (松本(雅)、奥田、紀藤) (資料 3 参照)

●新しい会員管理システムへの移行が完了し、1 月より稼働中である旨、報告が行われた。またサーバー移行やHP更新については、上記の通り庶務とIT-広報で連携し、12 月上旬の新 HP 公開を目指して、HP デザイン・階層構造などの議論を進める。

◆ 学術企画 (太田、川村)

(1) 日本遺伝学会第 98 回大会 ワークショップ (資料 4 参照)

2026 年 9 月 10 日 13:00～ 東京科学大学大岡山キャンパス

日本プロテオーム学会共催

遺伝学×プロテオミクス:遺伝学研究を拓く次世代プロテオミクス

(2) 2026 年 日本分子生物学会・生化学会合同大会 シンポジウム (資料 5 参照)

2026 年 12 月 2 日 11:15～パシフィコ横浜 第 21 会場

正確な定量が変える生命科学:プロテオミクスの現在と未来

(3) 2027 年 第 27 回蛋白質科学会年会

2027 年 6 月 28 日～30 日 福岡国際会議場

昨年の WS 公募締め切り 11 月

(4) 学術企画における招待講演者の取扱いについて、会員以外の研究者に講演を依頼する際には、交通費・宿泊費等の実費を学会として負担できるようにした方がよいのではないか、とのご意見をいただきました。特に、他学会や他分野の研究者に講演を依頼する場合の費用負担のあり方について、理事の先生方のお考えをお聞かせいただければ幸いです。

●外部学会において本学会共催シンポジウムを開催する目的は、本学会およびプロテオミクス分野のプレゼンス向上にあると考えられる。そのため、可能な限り本学会員による発表を中心とすることが望ましい。また、非学会員をシンポジウムに招待する場合に本学会から補助を行うことは、上記の目的からすると適切ではないのではないか、との意見が石濱理事より示された。

◆ 国際連携・イニシアチブサポート (石濱、植田、武森)

HUPO、AOHUPO 活動報告

(1)HUPO 関連 (資料 6 参照)

(2)AOHUPO 関連 (資料 7 参照)

(3)その他

●植田理事・石濱理事より HUPO・AOHUPO 関連の報告が行われた。特に AOHUPO については、開催国別回数を踏まえると、次回(2029 年度)の開催候補地として日本が有力となる可能性が高いとの報告があった。また、次回 HUPO アジア・オセアニア枠(2029 年度)と AOHUPO を合同で開催するかどうかについて、JPrOS 理事会、もしくはシニアメンバーを含めて意思確認を行うべきではないかとの提案が、石濱理事および植田理事よりあった。

●HUPO Diversity candidate についてルール変更があり、これまでよりも募集要項の制限が厳しくなるため、日本からの候補者が Diversity candidate の要件に合致しにくくなる可能性がある。また、HUPO Diversity candidate の募集告知から締切までの期間は通常 1 週間程度と限られていることから、候補者を立てる場合には、事前に戦略を立てて準備を進める必要があるとの指摘が、足立会長よりあった。

JPrOS イニシアチブ

(1)Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

(2)Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)

(3)Top-Down Proteomics (Initiative for Gel-based Human Proteoform Atlas)

◆ 教育 (松本(俊)、小迫、村岡) (資料 8 参照)

●2025 年度の教育セミナーの活動報告と、2026 年度の教育セミナー予定について報告があった。

◆ 学会誌編集 (武森、植田、久野)

(1) Proteome Letters

(2) JPDM

●順調に原稿が集まっている旨、学会員編集委員より報告があった。

【審議事項】

1. 2025 年度収支決算報告および 2026 年度予算案（三城、杉山）（資料 9 参照）

【2025 年度 一般会計収支決算書】

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

経常収益（収入）	19,101,184 円	
《内訳》		
受取会費	1,416,000 円	
（個人会員）		300,000 円
（法人会員）		750,000 円
（大会システム使用料）		366,000 円
事業収益（2025年大会）	13,441,000	
（受取参加料）		2,391,000 円
（受取広告料）		770,000 円
（受取展示料）		6,875,000 円
（受取懇親会費）		1,095,000 円
（ランチョンセミナー/ナイトセミナー）		2,310,000 円
受取補助金等	3,700,000	
（JPDM国際情報発信強化）		3,700,000 円
受取寄付金	270,000	
（受取寄付金）		270,000 円
雑収益	270,720	
（受取利息）		20,689 円
（雑収益）		250,031 円
特定資産運用益	3,464	
（特定資産受取利息）		3,464 円
経常費用（支出）	16,791,590 円	
《内訳》		
事業費	15,563,321 円	
大会	11,826,542 円	
（会議費）		0 円
（懇親会費）		3,715,250 円
（旅費交通費）		1,674,002 円
（通信運搬費）		4,010 円
（消耗品費）		99,070 円
（印刷製本費）		98,000 円
（賃借料）		1,889,754 円
（支払手数料）		144,547 円
（委託費）		4,201,909 円
（雑費）		0 円
助成	3,736,779 円	
（会議費）		9,900 円
（懇親会費）		0 円
（旅費交通費）		1,835,292 円
（通信運搬費）		85,536 円
（消耗品費）		9,614 円
（印刷製本費）		198,110 円
（賃借料）		273,018 円
（支払手数料）		106,898 円
（委託費）		1,218,411 円
（雑費）		0 円
管理費	1,228,269 円	
（旅費交通費）		0 円
（通信運搬費）		1,811 円
（消耗品費）		0 円
（印刷製本費）		152,405 円
（租税公課）		2,000 円
（支払手数料）		47,028 円
（委託費）		636,895 円
（雑費）		388,130 円

2025年度 正味財産増減額；	1,470,582 円	
➢税引前一般正味財産増減額(経常収益－経常費用)；		2,310,078 円
➢法人税、住民税及び事業税；		839,496 円
➢指定正味財産増減額；		0 円

正味財産合計(純資産)	14,382,010 円(2025年度繰越金)
➢2024年度 繰越金；	12,911,428 円
➢2025年度 正味財産増減額；	1,470,582 円

【貸借対照表】

2026年 3月31日現在

日本プロテオーム学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	19,685,314	21,576,842	△ 1,891,528
前払費用	0	66,000	△ 66,000
流動資産合計	19,685,314	21,642,842	△ 1,957,528
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
JPDM国際情報発信強化	0	5,107	△ 5,107
特定資産合計	0	5,107	△ 5,107
固定資産合計	0	5,107	△ 5,107
資産合計	19,685,314	21,647,949	△ 1,962,635
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	27,500	182,172	△ 154,672
前受金	4,380,000	8,190,000	△ 3,810,000
前受会費	50,000	150,000	△ 100,000
預り金	10,004	9,749	255
未払法人税等	835,800	204,600	631,200
流動負債合計	5,303,304	8,736,521	△ 3,433,217
負債合計	5,303,304	8,736,521	△ 3,433,217
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
1. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	14,382,010	12,911,428	1,470,582
	(0)	(5,107)	(△ 5,107)
正味財産合計	14,382,010	12,911,428	1,470,582
負債及び正味財産合計	19,685,314	21,647,949	△ 1,962,635

令和 7 年度（2025 年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和 7 年度（2025 年度）の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和 8 年 7 月 12 日

会計監査 榊原 陽一

令和 7 年度（2025 年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和 7 年度（2025 年度）の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和 8 年 7 月 12 日

会計監査 肥後 大輔 

2026 年度予算案（三城、杉山）（資料 10 参照）

【令和 8 年度（2026年度）予算（案）】

収入	30,738,049 円
《 内訳 》	
2025年度繰越金	14,382,010 円
受取会費	
（個人会員＋会員管理システム利用料）	650,000 円
（法人会員）	750,000 円
事業収益	
（2026年大会開催収入）	14,770,000 円
受取助成金	0 円
受取寄付金	165,350 円
雑収益	
（利息など）	20,689 円
支出	30,738,049 円
《 内訳 》	
事業費	
（2026年大会開催支出）	14,147,127 円
管理費	
（会議費）	30,000 円
（通信運搬費）	10,000 円
（消耗品費）	10,000 円
（印刷製本費：Proteome Letters）	300,000 円
（印刷製本費：JPDM作成経費）	200,000 円
（諸謝金）	10,000 円
（支払手数料：クレジット）	40,000 円
（支払手数料：J-STAGE）	66,000 円
（委託費）	
— Web運営維持管理費（デザインリンク）	150,000 円
— Web運営維持管理費（さくらインターネット）	6,600 円
— 会員管理システム・HP改定管理費（謝金）	240,000 円
— 同上（謝金）2024・2025年未払い分	400,000 円
— 会計事務	500,000 円
（雑費）	
— 学会賞、トラベルアワード関連	150,000 円
— 山下雅道賞	165,350 円
科学研究費助成事業費	0 円
税金	74,000 円
予備費（2026年度繰越金）	14,238,972 円

●会計委員より 2025 年度会計報告、2026 年度会計予定について説明があり、承認された。会員管理システム・ホームページ改定費用の支払いについては、2024 年・2025 年分が事務的ミスで未払いとなっていたため、今年度まとめて支払うことが承認された。

2. JPrOS2028 大会(足立)

- (1) 大会長 堂前 直(理化学研究所)
- (2) 予定開催場所 大宮ソニックシティ(埼玉県、大宮)を検討中
- (3) 予定開催期間 2027 年 7 月の後半

●足立会長より、堂前先生から大会長の内諾を得たことの報告があり、JPrOS2028 大会について大会長・開催場所・日程の概要が共有された。

3. 規約の改定(足立)

- 1) Presentation Award 選考規定について

[現行]

5. 申請方法

申請者は次の全項目を A4用紙1枚(厳守)に簡潔にまとめて庶務担当理事宛送付する。(イ)申請者氏名(所属・連絡先)(ロ)生年月日または PhD 取得年(ハ)発表タイトル(ニ)発表概要(ホ)JPrOS 大会での発表の予定(ヘ)過去の JPrOS 大会における発表履歴(ト)JPrOS 入会年(チ)リサーチマップ URL(※登録済の場合のみ)

[改訂案]

5. 申請方法

申請者は次の全項目を A4用紙1枚(厳守)に簡潔にまとめて庶務担当理事宛送付する。(イ)申請者氏名(所属・連絡先)(ロ)生年月日または PhD 取得年(ハ)発表タイトル(ニ)発表概要(ホ)JPrOS 大会での発表の予定(ヘ)過去の JPrOS 大会における発表履歴(ト)JPrOS 入会年(チ)リサーチマップ URL(※登録済の場合のみ)(ただし各大会の応募規定に準ずる)。

●足立会長より、Presentation Award 規約の改定について提案があり、承認された。なお、来年度以降もルールが変わる可能性があるため、それに対応できる表現を規約に用いた旨、説明があった。

4. JPrOS 学会ホームページ運営体制について(阿部)

該当箇所

- 学会誌(https://jhupo.org/gakkaisi/2024_9_1_jp.html)
- 英語 HP 全般

提案

- 学会誌の情報が J-Stage リンク先と被っているため、更新内容を削減したい。巻号一覧のみ更新し、“こちら(J-Stage)”のみ残す。
- 英語版 HP の更新が長時間実施されていないので、無理のない範囲で更新頻度を決めておきたい。

例: HOME(年 1 回、JPrOS 開催前)

Organization Structure(2 年に 1 回、理事会代替り時)

Meeting(年 1 回、JPrOS 開催前)

Proteome Letters(年 2 回、出版前)

Contact Us(2 年に 1 回、理事会の代替り時)

●阿部理事より HP 更新ルールについて提案があり、承認された。なお学会 HP は 2026 年 12 月に大規模な再構築が行われるため、定期更新の対象範囲は改めて理事会承認を得る予定。